

< Japanimation >

現在、アメリカでは日本語学習熱が再燃しているという。その1次ブームは90年代初めの日本が好景気の時期で、経済大国日本とのビジネスチャンスをもつためにビジネスマンや日本語ができることが武器となっていたようだ。しかしながら今の日本語学習熱はそうした理由ではなく、日本のアニメやコミックを原書で読みたいという若い人を中心に高まっているそうである。私がホームステイした家のお嬢さん(16歳)は日本との出会いはmangaとPlay Stationだと教



< 棚には日本のアニメが並ぶ >

えてくれた。("manga"という言葉もすでに英語として十分通用する言葉になっている。) 実際、彼女の部屋には日本のアニメのDVDやゲームのキャラクターのシールなどが所狭しと並んでいたり、おみやげで持っていったポケモンカードにも彼女は大変によるこんでいた。彼女もいつかは日本で日本語を勉強して、漫画をそのまま読むことが今の夢なのだそう。

またサンフランシスコで、漫画を扱った書店に立ち寄ってみたところ、販売されている本の6~7割が日本の漫画であった。鉄腕アトムから今連載されている最新の漫画まで、多くのタイトルが英訳されていることに大きな驚きを覚えた。店員に話を聞いてみたところ、現在一番人気があるのは「遊戯王」と「DRAGONBALL Z」なのだ



そうで、専門誌の表紙を見ても日本の漫画の人気の高さが伺える。私が訪れたときも2人の若者が熱心にドラゴンボールを読んでいた。彼らが漫画に夢中になっている姿が非常に印象的であった。



(青山 浩幸)

< 熱心にDBZを読む若者 >

< アメリカのアニメ専門誌 >

アンケートを通してみる日本

我々の班では、日本人とアメリカ人が、お互いに抱くイメージのステレオタイプと実際とのギャップの調査分析を米国理解をより深める材料とするために、アンケートを用いて調べることとした。両国でのアンケートの回答を比較検討することで、お互いの国に対してもつステレオタイプと実際との相違を考察することを目的とする。

(1) 日本でのアンケート調査

まず事前調査としてそれぞれの勤務校において、児童生徒にアメリカに関するアンケートを行った。設問と回答は次の通りである。

< アンケート結果 > (%は正答率)

- 1)アメリカの場所 - 小学校1(10%) 小学校2(23%) 中学校1(47.5%) 中学校2(78%) 高校(84%) (不正解のほとんどはアラスカが入っていないなど)
- 2)アメリカの国旗 - 小学校1(97%) 小学校2(69%) 中学校1(98%) 中学校2(95%) 高校(97%)